

キリスト教保育

年主題 ともに

新連載

私たちの
キリスト教保育
赤木敏之

せんせいの
お話ききたいな
菊野秀樹

礼拝のお話／
年間カリキュラム表



特集 「ともに」

2025 APR. 4

主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。

聖書 口語訳聖書・創世記2章7

創世記が伝える人間創造の物語は、ひとたび神を見失った人間、罪なる人間が、その悲しみの中で到達した認識であった。

人間は歴史の初めに、一挙に人間が到達しなければならない最も高い、最も深い認識に到達したのではなかろうか。自分は神によってつくられたのだという最も深い認識に。そして、いっさいの人間の不幸と悲惨さは、人間がその認識を見失うことによって惹き起こされたのではなかろうか。

神がそのみ手を触れてくださらないならば、自分たちは一塊の土にすぎない。神がその生命を吹き込んでくださらないならば、動くことのない人形にしかすぎない。その認識には深い恐れがあった。だが、ただ恐れだけではない。それにもまして深い感動と深い安らぎがあるように思う。自分たちはただの土塊^{つちくれ}ではない。神の手によって形づくられたものである。それだからもっと素晴らしく生きねばならない。生きることが出来るはずだ。生きることのむなしさとむなしさに打ち勝てるはずだ。子を産み、育てることは、ただの苦しみではないはずだ。そこに生きることの意味と美しさが隠されている。働くことは、ただ苦しいことではない。それはやがて生きがいとなり、喜びとなる。神は、その造りたもうた者のために、悲しみの中に喜びが、苦しみの中に生きがいが、隠されているのである。この人間創造の物語は、単なる認識以上のもの、生きることへの肯定があるように思う。

私たちのなしていること、教会、園のなしていること、また教会、園の関わっている仕事が、神のつくりたもうた目的にかなっているのか、神のご期待にそっているのか、深い恐れをもって省みてみたい。私たちは皆、私たちをつくりたもうた神のみ手の内にあるのである。

私たちが自らを省みて、それが見栄えのない土の器、むしろ砕かれて、造り直されるのがふさわしいように見える土の器に思えても、絶望してはならない。神はこの見栄えのない土の器に、キリストの福音を盛りたもうと約束されている。

私たちは神から造られたものであることを、深い恐れをもって思おうではないか。更にその持つ深い恵みを思って、神のご期待にそう者になろうではないか。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1974年『キリスト教保育』誌4月号より



ようこそ

キ保誌へ

子どもも大人も

一人ひとり神さまにいのちを与えられ 祝福された大切な存在

子どもと

ともに あそびましょう

ともに たべましょう

ともに うたいましょう

ともに よろこびましょう

時には ともに泣きましょう

同僚と

ともに あそびましょう

ともに たべましょう

ともに うたいましょう

ともに よろこびましょう

時には ともにくやしがりましょう

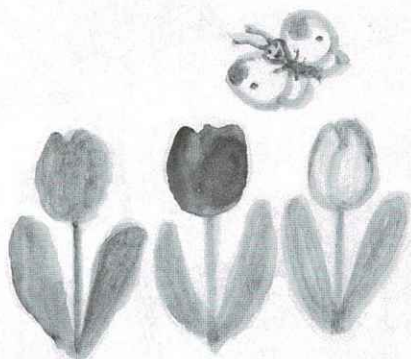
大人も子どもも

神さまの恵みの中で心かよいあい心育まれますように

キリスト教保育

第674号4月号

年主題 とともに



幼子とともにキリストへ

ようこそキ保誌へ

目次

〈巻頭言〉 くり返しくり返し 西巻茅子

〈論説〉 フレーベルに学ぶ(1) 菅原陽子

子どもの祈り

〈小論〉 ことばという窓口から

考える 瀬川千津子

【特集】

とともに

年主題・年主題年聖句

年主題聖句について 黒米理恵

年主題について 寺田千栄

年間聖句表 黒米理恵

年間カリキュラム表 保育実践研究委員会

聖書にきく・月聖句のお話 黒米理恵

18 17 8 6 4 3 2

34 30 29 24 22 21





【カリキュラム】

4月 月のねがい表

心にとめて 井奥千恵

0・1・2歳児 実践報告 big gung 本郷台

実践からの学び 染谷雅広

心にとめて 武田健

実践報告 柏めぐみ園

実践からの学び 相川徳孝

《新連載》 私たちのキリスト教保育 赤木敏之

《新連載》 せんせいのお話ききたいな 菊野秀樹

絵本のとびら 阿部則子

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 今野瑛

礼拝のお話テキストについて 赤木敏之

礼拝のお話カリキュラム 編集委員会

礼拝のお話 赤木敏之

風 松本敏之 編集子 加藤早恵

2025年編集委員会から

連盟だより

82 81 80 71 68 66 65 62 61 58 54 53 48 46 45 40 38 37

